

# 保護者の皆様へ

## ■子どもたちの考える「世界中」

インターネットに投稿された写真や動画、コメントなどが悪い意味で注目をあびて、時にはニュースにも取り上げられてしまう、いわゆる炎上があとを立ちません。「インターネットに投稿した写真や映像は、世界中に広がる」という話を子どもたちに話した時、子どもたちが想像する「世界中」はどのようなものでしょうか。

小学校で世界について学習するのは社会科です。しかし、社会科の学習が始まる3年～4年生では身近な地域について、5年生では日本について学習し、世界に関して学習を始めるのは6年生からです。

つまり、5年生までは世界という言葉によってイメージするものには個人差があります。世界は家庭や学校、地域をそのまま拡大したものとする子供もいるかもしれません。

家庭や学校は、子供の成長、社会勉強のために多少のおふざけや失敗があっても子供を守る方向で指導をします。ところが「禁じられていることをしても叱られるだけですんだ」という体験を一般化して、ネットでは許されない発言や行為に及んでしまうと、その行為が将来に渡って自分を苦しめる事態になることもあります。

また、世界とつながるネットは大人の社会の悪意とも隣合わせです。小学校の道徳科では「困っている人がいたら助けましょう」ということを徳目として教えますが、ネット上で知らない人から「困っているから助けてほしい」と言われた時に、助けにいくべきでしょうか。ネットの普及により、これまで小学校では学習しなかった大人の社会の悪意についても、学校や家庭で教えていかなければならない時代になったといえるでしょう。

子どもたちに教えるべきことはたくさんありますが、本日はその一歩として、個人情報、肖像権について、講師から話をさせてもらいました。是非家庭でも話題にしてみてください。